

# 佐賀県茶業振興計画

令和3年3月

佐 賀 県

# 目 次

計画策定のねらい	1
茶の現状	2
茶業振興に関する基本方針	
1 基本的な展開方向	4
2 基本的な展開方向ごとの主な推進事項	5
3 栽培面積と生産量の見通し	9
4 お茶の文化の振興	10
参考資料	11

## I 計画策定のねらい

「うれしの茶」は、蒸し製玉緑茶や釜炒り茶といった特徴のある茶の銘柄として知られており、中山間地域における重要な品目となっていますが、生産者の減少や高齢化等により栽培面積が減少しています。

また、肥料等の生産資材価格の高騰による、農家経営の収益性低下、連年の被覆による樹勢の低下、過剰施肥や踏圧による土壌条件の悪化や近年の気象変動などにより収量や品質が低下しています。

さらには、生活様式の変化により、清涼飲料やペットボトル茶などの消費が拡大し、茶葉の需要が減少しているため、荒茶価格が長期にわたり低迷しています。

こうしたことから、国においては、令和2年4月に「お茶の振興に関する法律（平成23年法律第21号）」に基づく「茶業及びお茶の文化の振興に関する基本方針」を改定し、国内外の多様化したニーズを的確にとらえつつ、各産地の特徴や実情を踏まえたお茶の生産、加工、流通の取組を促進していくこととされました。

このような中、県では、令和元年度から、生産農家をはじめ、JAや市町などの関係者と連携し、「さが園芸888運動」に取り組んでおり、運動においては、平成29年に629億円であった園芸農業の産出額を、令和10年までに888億円とする目標を掲げ、茶においても、この目標の達成に向けた取組やその実践を強化しています。

この計画は、お茶の振興に関する法律第三条に基づき県が定める「茶業及びお茶の文化の振興に関する計画」として位置付けるとともに、県が令和元年8月に策定した「佐賀県『食』と『農』の振興計画2019」で示した取組をより具体化する個別計画とし、目標年度は令和12年度としています。



## さが園芸888運動

チャレンジ! 活気あふれるさが園芸へ

## II 茶の現状

### 1 全国の動向

#### (1) 栽培面積の状況

全国における茶の栽培面積は、昭和 55 年の 61,000ha をピークに減少に転じ、令和元年では 40,600ha とピーク時の 67%になっています。

また、荒茶生産量は、昭和 55 年に 102,300 トンであったものが、令和元年には 76,500 トンに減少しています（対比 73%）。

#### (2) 茶種別及び茶期別の生産状況

平成 28 年の生産量を茶種別にみると、普通煎茶が 45,500 トン（59%）を占めており、本県の主力である玉緑茶（蒸し製玉緑茶、釜炒り茶）は 1,690 トン（2.2%）となっています。

また、茶期別にみると、一番茶が全体の 30,100 トン（39%）、二番茶が 20,000 トン（26%）、三、四番茶が 7,820 トン（10%）、秋冬番茶が 19,100 トン（25%）となっており、緑茶飲料の需要増加を背景として、秋冬番茶の生産割合が高まってきています。なお、平成 29 年以降は二番茶からの統計調査が終了していますが、令和元年の一番茶の割合は 36%になっており、年々減少しています。

#### (3) 緑茶消費量の減少、荒茶価格の低下と輸出の拡大

緑茶の一人当たりの消費量は、昭和 55 年には 889 グラムであったものが、他の飲料との競合や若年層の緑茶離れなどを反映して、令和元年には 642 グラムと 72%にまで減少しています。一方で緑茶の輸出量は、日本食ブームを背景として、昭和 60 年度に 1,762 トンであったものが、令和元年度には、5,108 トンにまで増加しています。

なお、令和元年の荒茶価格（一番茶～秋冬番茶平均）は、968 円/kg となっており、平成 5 年の 1,886 円/kg の 51%にまで落ち込んでいます。

#### (4) 茶の用途の多様化

茶葉に含まれる成分（ビタミン類、カテキン類、ミネラル）がもたらす、抗酸化作用、消臭効果などの機能性が着目され、飲用だけでなく、食品素材、医療用品や化粧品などの新たな製品にも利用されています。

## 2 佐賀県の動向

### (1) 栽培農家数及び栽培面積の状況

県内における茶栽培農家は平成 22 年に 1,283 戸であったものが、高齢化等による離農等により令和元年には 403 戸と、大きく減少しています。

また、栽培面積は、昭和 55 年の 1,170ha に対し、令和元年は 749ha(全国の 1.8%)にまで減少し、茶の産出額も平成 30 年には 13 億円にまで落ち込んでいます。

### (2) 茶種別及び茶期別の生産状況

令和元年度の西九州茶農業協同組合連合会における取扱量を見ると、茶種別の生産量は、かぶせ茶が 296 トン(46%)、露地栽培の玉緑茶が 179 トン(28%)、普通煎茶が 106 トン(17%)となっており、被覆栽培の取組拡大により、かぶせ茶は増加傾向にあります。

また、茶期別に見ると、一番茶が 357 トン(40%)、二番茶が 352 トン(40%)となっています。

なお、本県産茶の代名詞となっていた釜炒り茶については、55 トン(取扱量全体の 6.1%)となっています。

### (3) 環境保全型農業への取組状況

県内において、茶の有機栽培や特別栽培など環境保全型農業に取り組んでいる農家は、平成 23 年度は 303 戸で、令和元年度には 192 戸と減少しています。

### (4) 生産施設・機械等の整備状況

令和元年の本県における荒茶工場数は、113 カ所で、経営形態別の内訳は、個人有 86 カ所、協業型(任意)16 カ所、その他 11 カ所となっており、個人有の工場の割合が 76%となっています。

また、作業効率が高く、労働負担の軽減効果が大きい乗用型摘採機の導入割合(摘採実面積に対する導入割合)は、平成 23 年に 56%であったものが、73%に増加していますが、全国平均(76%)と比較して、やや低くなっています。

### (5) 栽培品種及び樹齢の状況

本県の栽培面積に占める「やぶきた」の割合は、平成 23 年時点で 81%と偏重していましたが、令和元年時点でも 75%と依然として高い割合となっています。このため、摘採時期の集中、品質の画一化や病害虫の多発などの問題が生じていますが、その一方で、多様化する消費者ニーズへの対応のため、品種転換の動きがみられています。

また、生産性の低下が懸念される樹齢 31 年以上の茶園の割合が 26%と高い状況が続いています。

### (6) うれしの茶の認知度向上への取組状況

関係者と連携して、試飲会での PR やお茶のおいしい淹れ方教室の開催などを通じて、「うれしの茶」の認知度向上に取り組んでいます。

また、全国茶品評会に県内から出品されたお茶が、「釜炒り茶」の部門において、令和元年度に最高位の農林水産大臣賞と産地賞 1 位を 7 年ぶりに獲得し、さらには、令和 2 年度にも両賞を獲得しました。「蒸し製玉緑茶」の部門でも、令和 2 年度に 4 年ぶりの産地賞 1 位を獲得しており、「うれしの茶」の認知度向上に大いに寄与しています。

なお、平成 18 年 4 月、商標法の改正により、地域団体商標制度がスタートしたことに伴い、西九州茶農業協同組合連合会及び佐賀県茶商工業協同組合が、「うれしの茶」を地域団体商標として共同申請され、平成 20 年 6 月 13 日に登録【登録番号：登録第 5140676 号】されたことから、「うれしの茶」の名称が地域ブランドとして保護されています。

### Ⅲ 茶業振興に関する基本方針

#### 1 基本的な展開方向

緑茶は、日本の風土と長い歴史によって育まれた日本を代表する飲料です。

また、学術的に幅広い効用を持つことが明らかにされ、安全・安心な健康飲料であるとともに、飲料以外の様々な用途が開発されるなど、その価値は世界的に高く評価され、海外での需要拡大が期待されています。

こうした中で、佐賀県のお茶は、「うれしの茶」の銘柄で全国に知られており、中山間地域における重要な地域特産物となっています。

しかしながら、産地では担い手の減少や高齢化が進展し、生産条件が不利な茶園では耕作放棄も見られてきています。

一方、消費面では、生活様式の多様化や食生活の変化などにより、緑茶（リーフ茶）の消費量が長期にわたり減少傾向にあり、価格の低迷が続いています。

こうした現状を打開するため、今後、県内各産地が持つ特性や長年にわたり蓄積されてきた高度な技術等を最大限に活かしながら、

**収益性の高い茶業経営の推進による次世代を担う生産者の育成**

**樹勢低下や気象変動に対応した持続性のある茶園づくり**

**「うれしの茶」の需要の拡大や新たな商品づくり**

を主体とした取組を、関係機関・団体が一体となって推進していくこととし、生産者にとっても、また消費者にとっても、魅力のある佐賀県茶業の確立を目指すものとします。

## 2 基本的な展開方向ごとの主な推進事項

### (1) 収益性の高い茶業経営の推進による次世代を担う生産者の育成

#### 生産から製茶・販売までの一貫経営を行う生産者の育成

農家や生産組織が、生産した生葉を活用して荒茶加工を行い、仕上茶まで加工し販売する経営は、生産だけでなく、加工・販売の各段階で発生する付加価値を一貫して取り込み、さらには、自販によりお茶製品の消費者ニーズを的確に把握することも期待されます。このため、農家経営の所得向上及び安定的な経営を確立する観点から、経営を多角化・高度化する取組を促進します。

#### 基盤整備を含む茶園の改良や自動省力化機械の導入等による効率的な生産体制の整備

生産性を高めるため、小区画や作業道の整備が不十分など、地形的に条件が不利な茶園を機械化に対応したものとなるよう、その整備を推進します。また、各種作業の省力化のため乗用型摘採機など機械の導入を推進する一方で、機械の個人所有による過剰投資を避けるため、共同利用などによる低コスト化を推進します。さらには、高齢化や労働力不足への対応や、お茶の高品質化を図るため、地域の栽培条件に応じたスマート農業技術の研究開発及び実証・導入を推進します。

一方、老朽化した荒茶加工施設の更新などにあたっては、過大な規模の施設整備による生産コストの増加につながらないよう、適切な規模での再編整備を推進するとともに、短期間に荷受けが集中するのを防ぐため、摘採時期を分散させるなどの取組を推進します。

さらには、たい肥等地域の有機物資源を有効活用した土づくり、土壌診断に基づく適正施肥、病害虫発生予察に基づく効率的な病害虫防除など輸出にも対応できる生産体制の整備を図りつつ、コストの低減を推進します。

#### 雇用の導入による大規模化や法人化、担い手の茶園の利用集積の推進

中山間地域では、高齢化等により生産者の離農の増加が予想され、農村コミュニティの維持の観点からも、今後、その保有する優良な茶園が荒廃地とならないよう、農業委員会などの関係機関と連携し、新規就農者を含む意欲ある多様な経営体に優良園地の継承・集積する取組を促進します。

さらには、雇用の導入や法人化などの経営改善に意欲的な認定農業者や経営に参画する女性農業者などの取組に対して支援するとともに、就農して茶の生産に取り組もうとする人への資金貸付などの支援、就農初期の濃密指導、就農後の継続的な技術指導などにより、将来の茶産地の担い手の確保・育成に向けた取組を推進します。

## ( 2 ) 樹勢低下や気象変動に対応した持続性のある茶園づくり

### 計画的な改植による茶園の若返りや優良品種への転換促進

茶樹の老齢化による品質・収量の低下の防止や経営の安定、摘採・製茶など各種作業の短期集中の回避及び晩霜害の防止や需要に応じた品種の展開を図るため、計画的な改植による茶園の若返りを促進します。また、改植に当たっては、優良品種への転換による収益性の向上や、早生品種と晩生品種の組み合わせによる生産性の向上を推進します。さらには、施肥量及び施肥回数を減らす効果のある緩効性肥料の施用や、中切りなどの耕種的防除法の普及を進め、化学肥料・化学合成農薬の使用を減らした環境保全型・省資源型農業を推進します。

### 連続被覆による樹勢低下や気象変動に対応した樹勢強化技術等の開発・普及

被覆栽培では、摘採時期の調整や遮光による葉緑素増加による葉色の向上や生葉品質の維持などがメリットである一方、連年被覆により樹勢が低下し、収量の低下や病虫害被害の助長などが懸念されます。また、近年の気象変動により、凍霜害、干害等の自然災害のリスクが存在します。こうした懸念、リスクに備えるため、品種ごとの樹勢強化技術等の開発・普及を図ります。

さらには、防霜施設の整備・更新、灌水施設の整備、早晩性の異なる複数品種の組み合わせ、収入減少に備えるための収入保険制度への加入等を推進します。



### (3) 「うれしの茶」の需要の拡大や新たな商品づくり

高品質なかぶせ茶の取組拡大と生葉の状態に応じた的確な製茶技術の徹底による荒茶及び仕上げ茶生産の推進

「かぶせ茶」は、収穫前に被覆資材で茶樹を覆って新芽を育てるため、露地栽培のお茶より渋みが少なく、うま味成分が多いなど、市場ニーズが高いことから、より高単価で取引される「かぶせ茶」の生産拡大を推進します。

また、茶工場内の湿度や生葉の含水率に基づき製茶機械の稼働条件を調節するなど基本技術の励行による高品質な荒茶生産を推進します。

ウーロン茶、和紅茶、粉末茶、フレーバーティー等多様化する消費者ニーズに対応した新たな商品づくりの推進

多様化した消費者ニーズに対応するため、外部の専門家を活用して新たな発想も取り込むなど、実需者等とお茶の生産者が連携し、生産から消費まで一体的な形で付加価値向上につながる取組や、新たな需要の創出の取組を促進します。このために、ウーロン茶、和紅茶、粉末茶やフレーバーティーなど多様なニーズに対応した新たな商品づくりを推進するとともに、新たな品種の育成・普及や栽培・加工技術等の研究を推進します。

また、緑茶に含まれる様々な成分がもたらすがん予防効果、血圧降下作用、殺菌作用等の機能性に着目した新商品や新用途への利用に関する研究開発等の情報収集及び生産者・関係機関・団体への情報発信を産学官が一体となって推進します。

輸出を視野に入れた栽培管理（病虫害対策、GAP等）と輸出先の消費形態などに対応した新たな商品づくりの推進

「うれしの茶」の販路の拡大を図るため、輸出相手国の情報収集・提供、商談会等への参加による海外販路を開拓・創出するための取組を推進します。また、輸出先国が求めるロットや品質に的確に対応できる生産・流通体制整備のための取組を推進します。

さらには、輸出先国・地域の求める残留農薬基準への対応のための実証圃の設置などへの支援を行うとともに、栽培履歴記帳の徹底と農薬等の適正使用の推進、GAP（農業生産工程管理：農業生産における各工程の正確な実施、記録、点検、評価を行うことによる持続的な改善活動）や、有機茶生産のための栽培転換などの取組拡大を推進し、輸出に向けた産地づくりを促進します。

## 「うれしの茶」のブランド確立につながる販売促進活動の推進

お茶の消費拡大及びお茶の文化の普及活動を行っている多様な団体と連携・協力し、「うれしの茶」の試飲会や、お茶を飲用する機会が少ない児童、若年層及び中年層などを対象とする、急須を用いてのお茶（リーフ茶）のおいしい淹れ方、楽しみ方の体験や歴史、効能などを学習できる参加型イベントをはじめ、お茶の産地である農村地域において、茶園の風景や茶摘み体験などを活用した都市農村交流の取組などを通じて、「うれしの茶」愛飲につながる普及活動及び効果的な食育活動を推進します。

また、「うれしの茶」の特徴や魅力を発信するための様々な媒体を活用した情報発信や、新たな販売機会の創出により、国内外における販路の拡大を図ります。さらには、全国茶品評会は、「うれしの茶」の認知度をさらに向上させる絶好の機会であることから、「蒸し製玉緑茶の部」及び「釜炒り茶の部」において、毎年、上位入賞及び産地賞を獲得できるよう、品質の向上を図るための取組を強化します。

### 3 栽培面積と生産量の見通し

令和元年度実績		令和 12 年度目標			
栽培面積 ( ha )	荒茶生産量 ( t )	栽培面積 ( ha )	荒茶生産量 ( t )	令和元年度対比	
				栽培面積	生産量
749	1,240	667	1,256	89%	101%

栽培面積及び生産量の長期見通しについては、過去 10 年間での減少率及び高齢化の進展等による、担い手の減少等を踏まえると、令和 12 年度には、令和元年度に対し 30%超の減少が見込まれますが、本計画においては、生産振興や需要拡大等の取組の推進による効果が発揮されることを前提として目標値を設定しています。

#### 4 お茶の文化の振興

日本のお茶栽培は、1191年に臨済宗の開祖である栄西禅師が、現在の吉野ヶ里町の山麓の霊仙寺内石上坊の庭に、宋の国から持ち帰った茶の種を播いたのが始まりといわれていることから、本県が日本のお茶栽培の発祥地とされ、江戸時代には、吉村新兵衛が嬉野市不動山の山林を拓いて茶の栽培を奨励し、茶業の発展に努めました。

江戸時代には、喫茶の習慣が庶民にも広まりましたが、これは、京都で庶民に煎茶を広めた「煎茶道の祖」と称されている佐賀県出身の高遊外売茶翁の功績が大きいといわれています。

さらに、江戸時代、佐賀県には長崎街道が通っていたことから、宿場町ではお茶とお菓子を旅人をもてなされておりましたが、この街道は「シュガーロード」とも呼ばれており、この街道を通じて緑茶と相性のよい和菓子の文化が開き、今なおその伝統の製法と味は受け継がれております。

江戸時代末期には、長崎県の女性貿易商の大浦慶が、嬉野茶を始め九州一円のお茶をイギリスなどへ輸出したことを契機に、明治時代には、お茶は日本の重要輸出品目となりました。

また、お茶を飲む時に欠かせない急須・湯のみなどの茶器には、「日本三大茶陶器」の一つとして親しまれている唐津焼や、全国的に有名な有田焼などが使用されるなど、佐賀県はお茶とは極めてゆかりの深い地です。

このように、お茶と深いかかわりを持つ本県においては、長い歴史や特色を活かし、お茶や文化に携わる幅広い方々や団体と緊密に連携しながら、お茶の文化の振興を図ります。

# 參考資料

【全国の茶生産動向】

年次	栽培面積 (ha)	10a 当り 荒茶収量 (kg)	荒茶生産量 (t)	産出額 (億円)
S55	61,000	168	102,300	1,458
60	60,600	158	95,500	1,491
H 2	58,500	154	89,900	1,473
7	53,700	170	80,400	1,519
12	50,400	191	84,700	1,541
17	48,700	229	97,800	1,472
22	46,800	200	83,000	1,079
27	44,000	194	76,400	907
R 1	40,600	215	76,500	

(資料) 農林水産省「茶統計年報」, 「工芸作物統計」, 「作物統計」及び「生産農業所得統計」による  
H7以降、荒茶生産量及び収量は主産府県の数値。ただし、主産府県数は、固定ではなく  
年次によって変動する。(以下同じ)

【全国の茶種別荒茶生産量の推移】

(t)

年次	普通煎茶	番茶	玉緑茶	おおい茶	その他	合計
S55	81,400	12,100	5,470	3,288	42	102,300
60	74,700	11,500	5,420	3,922		95,500
H 2	72,700	8,020	4,780	4,433		89,900
7	63,900	8,020	3,840	4,205	435	80,400
12	63,500	11,400	3,810	5,037	953	84,700
17	70,200	18,200	3,720	5,897	1,983	100,000
22	53,100	20,500	2,260	5,710	1,430	83,000
27	45,800	19,500	1,720	6,710	2,670	76,400
28	45,500	21,000	1,690	6,720	2,190	77,100

(資料) 農林水産省「茶統計年報」, 「工芸作物統計」, 「作物統計」及び「生産農業所得統計」による  
おおい茶は、「かぶせ茶」と「玉露」と「てん茶」の合計値(以下同じ)  
H7以降は主産府県の数値  
平成29年以降、調査データなし

【全国の茶期別荒茶生産量の推移】

(t)

年次	一番茶	二番茶	三番茶	四番茶	秋冬番茶	合計
S55	47,700	36,900	10,200	1,700	5,800	102,300
60	48,400	31,500	7,810	1,500	6,290	95,500
H 2	46,500	32,800	5,830	1,270	3,500	89,900
7	40,300	29,500	4,920	890	4,790	80,400
12	39,200	27,900	6,860	1,290	8,650	84,700
17	41,800	30,000	8,280	1,980	15,700	97,800
22	34,400	24,200	5,590	1,290	17,500	83,000
27	31,400	20,300	5,920	1,210	17,500	76,400
28	30,100	20,000	6,450	1,370	19,100	77,100
R 1	27,800					76,500

(資料) 農林水産省「茶統計年報」, 「工芸作物統計」, 「作物統計」及び「生産農業所得統計」による  
H7以降は主産府県の数値

【緑茶及びその他の飲料の一人当たり消費量の推移】

年次	茶類 (グラム)	茶類			レギュラー- コー ヒー (グラム)	炭酸 飲料 (ℓ)	果実飲料 (ℓ)
		緑茶	紅茶	その他 の茶			
S55	990	889	65	36	787	24	15
60	963	793	67	104	1,010	24	16
H 2	993	741	114	139	1,367	24	21
7	1,032	723	142	167	1,690	24	15
12	1,153	811	141	201	1,896	22	18
17	1,176	893	121	162	2,113	21	14
22	984	692	154	138	2,050	27	11
27	839	625	123	91		29	14
R 1	860	642	146	72		31	13

(資料) 総務省「家計調査結果」, 「人口推計」, 「国勢調査結果」, (社)全日本コーヒー協会、  
(社)全国清涼飲料工業会による

【緑茶の輸出入の推移】

( t )

年度	荒茶国内 生産量 A	輸入量 B	輸出量 C	国内 供給量 D=A+B-C	自給率 A/D × 100 (%)
S60	95,500	2,215	1,762	95,953	100
H 2	89,900	1,941	283	91,558	98
7	80,400	6,467	461	86,406	93
12	84,700	14,328	684	98,344	86
17	97,800	15,187	1,096	111,891	87
22	83,000	5,906	2,232	86,674	96
27	76,400	3,473	4,127	75,746	101
R 1	76,500	4,390	5,108	75,782	101

(資料) 農林水産省「茶統計年報」及び財務省「通関統計」による  
H7以降、荒茶生産量は主産府県の数値

【緑茶飲料等の生産量の推移】

(千ℓ)

年次	緑茶				ウーロン茶	紅茶
	緑茶	ブレンド茶	計	原料換算 (トン)		
H2	60	-	60	600	-	-
7	405	379	784	4,619	1,260	790
12	1,077	970	2,047	12,222	1,258	853
17	2,570	714	3,284	26,771	1,030	867
22	2,357	769	3,126	24,719	834	1,160
27	2,675	708	3,103	28,132	608	940
R1	3,027	617	3,644	31,266	479	1,173

(資料) 日刊経済通信社、(社)全国清涼飲料工業会

(注) 「原料換算」は、緑茶で10g/ℓ、ブレンド茶で1.5g/ℓ。

「緑茶の国内消費量」= 国内生産量 + 輸入量 - 輸出量

## 【緑茶の茶期別、茶種別価格の推移】

(円/kg)

年次	茶期	緑茶 平均	おい茶			煎茶			番茶	その他 の緑茶
			玉露	かぶせ茶	碾茶	普通煎茶	釜炒り茶	玉緑茶		
H5	一番茶	2,985	7,506	3,270	6,430	2,970	2,705		731	-
	二番茶	1,021	-	1,378	1,149	1,026	1,009		602	
	三番茶	769	-	920	730	780	755		466	
	秋冬番茶等	304	-	-	-	390	702		304	
	平均	1,886	7,506	2,737	4,981	1,965	1,905		469	
H10	一番茶	2,385	7,060	2,638	4,789	2,442	2,036		441	2,410
	二番茶	1,147	-	1,523	1,257	1,172	884		506	1,400
	三番茶	685	-	802	-	700	632		393	474
	秋冬番茶等	284	-	-	-	286	-		284	500
	平均	1,789	7,060	2,453	4,241	1,825	1,698		347	802
H15	一番茶	2,731	7,006	2,936	4,784	2,868	1,797		683	1,675
	二番茶	1,097	-	1,361	1,668	1,086	690		421	667
	三番茶	663	-	630	-	683	531		433	250
	秋冬番茶等	328	-	-	-	381	490		388	450
	平均	1,734	7,006	2,389	3,952	1,963	1,353		436	713
H20	一番茶	2,306	6,563	2,575	4,592	2,396	1,797		683	1,619
	二番茶	896	-	971	2,254	883	690		421	1,248
	三番茶	552	-	-	-	565	531		433	467
	秋冬番茶等	408	-	-	547	588	490		388	377
	平均	1,386	6,563	2,325	3,546	1,581	1,353		436	864
H25	一番茶	2,112	6,136	2,042	3,809	2,188	1,909	2,048	579	1,477
	二番茶	799	-	829	1,874	781	896	725	366	774
	三番茶	456	-	-	-	444	509	522	319	207
	秋冬番茶等	340	-	-	524	388	309	374	330	424
	平均	1,173	6,136	1,549	2,514	1,365	1,388	1,490	363	797
H30	一番茶	1,901	5,468	1,992	3,394	1,910	1,655	2,216	739	1,168
	二番茶	830	-	1,040	1,787	781	777	752	482	588
	三番茶	428	-	-	-	445	452	489	393	284
	秋冬番茶等	371	-	-	-	424	660	-	367	371
	平均	1,083	5,468	1,652	2,758	1,271	1,033	1,711	418	653
R1	一番茶	1,816	4,928	1,782	3,048	1,872	1,744	2,230	693	1,077
	二番茶	657	-	747	1,558	624	704	664	356	461
	三番茶	351	-	-	-	362	612	381	316	165
	秋冬番茶等	327	-	-	-	328	614	221	327	342
	平均	968	4,928	1,462	2,498	1,178	1,092	1,686	372	574

(資料) 全国茶生産団体連合会調査



【緑茶購入先別購入金額（1ヶ月）】

（円）

	茶専門店	スーパー	コンビニ	デパート	生協等	通販	その他	合計
S49	242	63		17	11		30	364
S54	329	100		33	18		36	517
S59	270	106		30	26		34	463
H6	196	115	4	36	30	31	36	443
H11	171	139	5	43	19	43	36	456
H16	157	145	5	43	26	49	26	451
H21	114	140	5	29	23	47	23	382
H26	77	114	4	29	12	40	18	299

（資料）総務省「全国消費実態調査」（5年ごとの調査）

スーパーにディスカウントストア・量販専門店を含む。

【佐賀県の茶生産動向】

年次	栽培農家数 （戸）	栽培面積 （ha）	10a 当り荒茶 収量（kg）	荒茶生産量 （t）	産出額 （千万円）
S55	11,800	1,170	165	1,930	227
60	7,850	1,150	170	1,950	251
H2	5,470	1,070	180	1,930	273
7	4,480	1,010	172	1,740	268
12	3,110	1,060	187	1,980	307
17	1,761	1,040	195	2,030	290
22	1,283	1,010	155	1,570	200
27	855	891	139	1,240	160
30	669	795	160	1,270	130
R1	403	749	166	1,240	-

（資料）農林水産省「茶統計年報」、「工芸作物統計」、「作物統計」及び「生産農業所得統計」による栽培農家数については、平成17年以降は佐賀県園芸課調査

【佐賀県の茶期別荒茶生産量の推移】

（t）

年次	一番茶	二番茶	三番茶	その他	合計
S55	748	691	493	-	1,930
60	938	611	398	-	1,950
H2	987	694	250	-	1,930
7	900	674	113	55	1,740
12	872	793	245	67	1,980
17	990	645	274	119	2,030
22	853	610	67	35	1,570
27	671	401	74	98	1,240
R1	574	-	-	-	1,240

（資料）農林水産省「作物統計」

【佐賀県茶種別生産量の推移】 (t、%)

年次	おおい茶		普通煎茶		玉緑茶		番茶等		計
	数量	%	数量	%	数量	%	数量	%	
S55	18	1	701	36	1,180	61	34	2	1,930
60	78	4	606	31	1,240	64	14	1	1,950
H 2	111	6	626	32	1,120	58	70	4	1,930
7	109	6	473	27	1,060	61	96	6	1,740
12	185	9	601	30	948	48	243	12	1,980
17	386	19	560	28	1,040	51	46	2	2,030
22	563	36	311	20	622	40	69	4	1,570
27	419	34	221	18	455	37	149	12	1,240
28	414	33	312	25	423	34	87	7	1,240

(資料) 農林水産省「作物統計」

平成29年以降、調査データなし

【西九州茶農業協同組合連合会取扱量】 (t)

年次	茶期	かぶせ茶	玉緑茶 (露地)	普通煎茶	本茶計	刈番・出物	総合計
H30	一番茶	221	51	11	320	65	385
	二番茶	76	173	62	321	73	393
	三番茶	-	2	48	50	4	55
	その他	-	0	-	0	108	108
	計	297	226	121	691	249	941
R1	一番茶	208	45	5	295	62	357
	二番茶	88	134	46	288	64	352
	三番茶	-	-	55	55	4	59
	その他	-	0	-	0	120	120
	計	296	179	106	638	249	887

(資料) 西九州茶農業協同組合連合会実績

【おおい茶生産割合】 (%)

年次	全国	佐賀県	長崎県	福岡県	熊本県	鹿児島県	静岡県
17	6	19	30	24	1	2	1
22	7	36	36	26	4	-	1
27	8	34	33	27	6	1	2

(資料) 農林水産省統計部 (おおい茶生産量 ÷ 荒茶生産量)

【お茶における環境保全型農業の取組状況】 (戸)

年度	H14	17	22	23	R1
戸数	86	185	248	303	192

【乗用型摘採機の導入割合】 ( % )

年次	全 国	佐賀県	長崎県	福岡県	熊本県	鹿児島県
H12	37	5	32	18	19	84
H17	41	22	54	29	28	82
H22	60	55	59	50	45	95
H27	65	67	60	63	51	100
R1	76	73	64	69	56	100

(資料) 農林水産省「作物統計」、農林水産省地域地域対策官室調査

導入割合 = 導入面積 ÷ 摘採実面積

【佐賀県における荒茶加工場数の推移】 (ヶ所)

区 分	H17	H22	H27	R1
個人有	152	140	119	86
協業型	35	28	28	20
農協有	11	10	8	7

(資料) 佐賀県園芸課調査

【主産県経営形態別荒茶工場数 (R1)】 (箇所、%)

区分	個人	任意	農事組 合法 人	会 社	農 協	その他	計
全国	3,212 (72.4)	413 (9.3)	142 (3.2)	487 (11.0)	199 (4.5)	13 (0.3)	4,438
佐賀	86 (76.1)	16 (14.2)	1 (0.9)	3 (2.7)	7 (6.2)	0 (0)	113
長崎	77 (83.7)	5 (5.4)	3 (3.3)	4 (4.3)	3 (3.3)	0 (0)	92
福岡	65 (43.6)	61 (40.9)	13 (8.7)	8 (5.4)	2 (1.3)	- (0)	149
鹿児島	234 (49.9)	36 (7.7)	- (-)	194 (41.4)	- (-)	5 (1.1)	469
静岡	1,409 (76.1)	122 (6.6)	50 (2.7)	174 (9.4)	97 (5.2)	- (-)	1,852

(資料) 農林水産省地域地域対策官室調査

「任意」は、複数の農業者で共有している施設や任意団体など法人化されていない共同利用施設

「会社」は、有限会社や株式会社

【佐賀県における品種別栽培面積 (令和元年産)】 (単位: ha、%)

品種名	やぶきた	さえみどり	おくみどり	つゆひかり	おくゆたか	その他	合計
面積	509.7	58.9	33.9	13.4	10.0	55.0	680.9
割合	74.6	8.7	5.0	2.0	1.5	8.1	

(資料) 佐賀県園芸課調査

【佐賀県の樹齢別茶園面積】

(ha)

年次	～10年		11～20年		21～30年		31年以上		計
	面積	%	面積	%	面積	%	面積	%	
H7	154	15	310	31	296	29	250	25	1,010
12	111	10	301	29	488	46	160	15	1,060
17	129	12	275	26	426	41	210	20	1,040
22	127	13	232	23	380	38	271	27	1,010
27	144	19	205	27	283	37	131	17	763
R1	154	23	159	23	194	28	174	26	681

(資料) 佐賀県園芸課調査

【全国茶品評会における佐賀県の受賞状況】

年度	蒸し製玉緑茶	釜炒り製玉緑茶	産地賞
H28	1等3席 1等6席	1等3席	1位 嬉野市 蒸し製玉緑茶の部 1位 嬉野市 釜炒り製玉緑茶の部
H29			
H30	1等4席 1等6席 1等7席	1等5席	
R1	1等3席 1等5席 1等6席	1等1席 1等2席 1等4席	1位 嬉野市 釜炒り茶の部
R2	1等2席 1等3席 1等5席 1等6席	1等1席 1等3席 1等4席 1等5席	1位 嬉野市 蒸し製玉緑茶の部 1位 嬉野市 釜炒り茶の部